

平成23年度 第1回CCC国際関係学グループ運営委員会 議事概要

I. 日時 : 平成23年4月11日(月) 午後4時30分から午後6時30分

II. 場所 : 早稲田大学 会議室

III. 出席者: 林委員 多賀委員

(事務局) 井端事務局長 森下主幹 松本職員

IV. 議事概要

1. 検討内容

現在検討中の学士力を実現するための授業モデルについて以下の内容とすることが確認された。

- ① 15コマの授業だけではなく4年間を通して能力を身に付けさせる戦略的な授業モデルにする。
- ② グローバルな視点での幅広い学びや動機付け、振り返り学習などにICTを活用する。
- ③ 解の無い問題に対して解を求めるプロセスを学ぶ授業デザインを検討する。
- ④ PBL等の課題解決の取り組みの中で学びのプロセスを身に付けさせる。
- ④ 学生が学んだ結果のアウトカムを、大学間や社会に公表することで社会への関与、社会・世界レベルでの学びの振り返りができるようなしくみをつくる。

以上を踏まえ、各委員の案について検討がなされた。

2. 授業モデルの検討

(1) 到達目標3のモデルについて

基礎・基本知識を身につけた学生(2年生～3年生以上)を対象とする、政策提言型の授業モデルとして、国際社会を再現するシミュレーションを展開した実習的な授業の一モデルで、4年間の学習成果を地球市民として世界に向けて政・ロープレを通じて、基本原理の振り返りをさせるモデルを検討した。

- ・ ICT環境を駆使して国際社会のシミュレーションを行い、問題解決のための交渉や国際会議を模擬的に再現し学習する。
- ・ テーマ設定から資料の共有までネットを通じて行える環境を整えます。
- ・ グループ内で活発に行える学習支援システム(LMSなど)を駆使して予習復習を徹底させる。
- ・ 関心の深いテーマについて、グループ間で対面やネットを通じて議論させ、学習意欲を喚起させ、世界中の学識者によるネット授業などを活用してグローバルな学びを実現する。
- ・ 身に付けた知識をもとにICT環境を利用した国際社会のシミュレーションに参加し、さらに必要とされる知識を活用するなかで振り返りを行わせる。
- ・ グループの協働作業で政策提言をまとめ、WEBサイトを通じて内外に発信させる。

また、同様の試みを複数の大学間で同時に行い、学習者間で比較、検討できるシステムを準備します。

- ・ 学習到達度の評価は、グループ学習の中で政策提言にどう関与したかをポートフォリオにより記述させ、学習者間による相互評価を中心に行う。

(2) ゼミ対象の体験授業のモデル

貧困、格差の問題、ボランティア活動などを含め、理論を学習し、フィールドで目の当たりにして実践的に身につける授業モデル。

このモデルは、到達目標3のモデルで政策提言する前に、体験学習として入れ込み、学びを進化させることとなった。

3. 次回までの宿題

本日検討したモデルのイメージで、作成担当委員に到達目標1についてまとめていただき、次回委員会で検討する。

V. 次回の開催日程

日時：4月中　メーリングリストにて調整